

21世纪日语本科系列多媒体教材



标准日语 高级视听说教程

主 编 刘小珊 陈访泽
副主编 张 韬 徐淑丹

9

华南理工大学出版社

21 世纪日语本科系列多媒体教材

标准日语

高级视听说教程

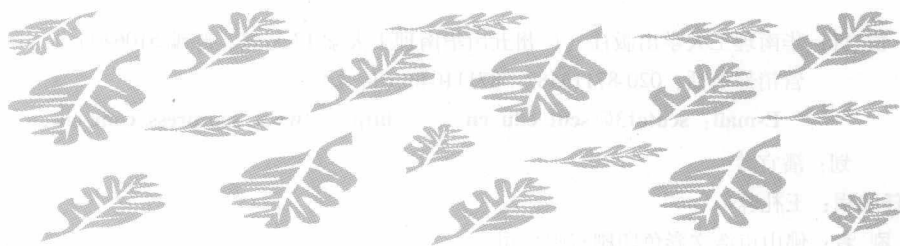
学生用书

主 编：刘小珊 陈访泽

副主编：张 韬 徐淑丹

编 者：宋伍强 刘 迪 李 沛 曾志灵

李旖旎 刘嫦云 林舜卿



华南理工大学出版社

广州

图书在版编目 (CIP) 数据

标准日语高级视听说教程/刘小珊, 陈访泽主编. —广州: 华南理工大学出版社, 2007. 2

(21 世纪日语本科系列多媒体教材)

学生用书

ISBN 978-7-5623-2549-9

I. 标… II. ①刘… ②陈… III. 日语 - 听说教学 - 高等学校 - 教材 IV. H369.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2007) 第 012758 号

总发行: 华南理工大学出版社 (广州五山华南理工大学 17 号楼, 邮编 510640)

营销部电话: 020-87113487 87111048 (传真)

E-mail: scutcl3@scut.edu.cn

http: //www. scutpress. com. cn

策 划: 潘宜玲

责任编辑: 王礼蓉

印刷者: 佛山市浩文彩色印刷有限公司

开 本: 787mm × 960mm 1/16 印张: 17.25 字数: 324 千

版 次: 2007 年 2 月第 1 版 2007 年 2 月第 1 次印刷

定 价: 38.80 元 (含 2 张 DVD)

版权所有 盗版必究

前言

目前国内的日语专业高年级普遍缺乏适合课堂教学的视听说课程教材,而现行的有关教材大都存在形式落后、内容陈旧、题型单调等问题,难以满足日语专业高年级视听说课程的需要,因此建立一套较为完整的视听说教材体系,包括教科书、练习、音像材料、多媒体课件等,就显得非常有必要。为此,我们特意编写了这套《标准日语高级视听说教程》。本教程的内容全部采用日本的电视新闻以及各类特别节目,根据文本编辑成教程的基本框架,并在此基础上为逐步建立多媒体教学体系创造条件。目的在于帮助广大学习者在了解日本的社会、文化、历史以及新闻报道写作的基础上,通过各种形式的练习看懂和听懂有关日本的各种题材的音像片断,从中学习标准规范的日语表达方式,学会与日本人打交道的方法和技巧。

《标准日语高级视听说教程》从1999年开始一直以试用教材的形式在本科生、自学考试生和日语高级培训班中使用,由于各课的结构合理,既有最新的新闻和文化方面的内容、重点词语的学习、多样化的配套练习题型,又有详细的讲义和听力文本,便于教师讲课和学生学习,几年来得到各方面使用者的良好反映。通过这套教材的学习,学生的日本语能力测试1级听力考试合格率可以达到80%~90%,收到了显著的社会效果。

在试用教材的基础上,我们于2003年下半年开始组织教材编写小组,在原有的基础上不断增补和修改内容、完善整体架构、加入适当的关联词语和背景知识,使教程更加趋于完善。我们在编写本教程时,确定了以下几个原则:

(一) 素材选择力求题材广泛、生动翔实

《标准日语高级视听说教程》包括学生用书、教师用书、录像光盘三大部分。教程的素材全部选自日本的电视新闻及专题节目,内容涉及政治、社会、文化、教育、生活、历史、科普等题材。在录音文本的基



础上整理编写练习题,形成了学生用书、教师用书和录像光盘系列,为进一步制作多媒体课件、建立多媒体数据库等提供了充分的条件。

(二) 教材结构力求层次分明、相辅相成

学生用书的基本框架有7层。第一层:背景介绍——主要是针对各课的话题所涉及背景情况、社会现状等作一陈述性的引导,可作为教师上课时事先说明的补充资料;第二层:重要单词——对录像中出现的重要词语给予日文解释和说明,并配有例句;第三层:专项练习——设置有三种类型的练习题——听写词汇填空、判断句子正误、看录像回答问题,通过形式不同的练习帮助教师检查学生的听解能力;第四层:常用表达——将录像中的习惯表达和专用词组表达在这一部分体现出来,以方便学生掌握具体的用法;第五层:内容要点——将录音文本中的难句、长句和核心内容展示出来,让学生预先对全文的主要内容有一个大致了解;第六层:关联词语——每课根据不同的话题提供20个左右与本课程内容相关的词语,旨在扩大学生的单词量。第七层:新闻报道的写法——共分32个专题内容向学生介绍新闻报道的写作方法、用词特点等。教师用书的内容分为两大部分。第一部分是练习的参考答案;第二部分是录像录音文本,用作教师备课和自学者自我检测的参考材料。

(三) 编写原则力求科学合理、讲练结合

1. 突出理论指导、实践为主。高级视听说课程一直缺乏统一的教材,本套教材正是为了弥补这些不足,同时每部分都安排有较多的实践材料,便于学生学有所用。

2. 突出章节特色、合理实用。本教材的几大结构各具特点,既互相配合又各自独立。其中的“重要单词”“常用表达”“关联词语”等部分的设置目的在于对现代日语听力中经常遇到的一些词汇、词组、惯用句型等作简明扼要的分析 and 归纳,从而帮助学习者更好地理解录像材料中的语言现象。

3. 突出专项练习、题型多样。本教程从实用的角度出发,根据各个不同的话题安排了大量的练习题,数量之多,内容之广,完全可以作为日语专业高年级的专业课主干教材的辅助练习,也可以满足其他日语学习者的需要。各种练习题均为编者多年从事日语教学的积累,可以帮

助学习者从各个角度、通过大量的练习来巩固和检测自己的日语水平。

本教程由刘小珊、陈访泽担任主编，负责全书的编写思路、素材筛选、题型设计及书稿的最后审定工作。除了主编、副主编及编者外，协助本教程编写的其他人员还有梶原理沙、内藤美由纪、高桥郁江、菅原英介等日籍教师。另外，赵燕飞承担了本教程初期的音像制作，在此一并表示感谢。由于内容经过多次修改，不妥之处在所难免，敬请广大读者批评指正。

编 者

2006 年 11 月

目 录

第1課	冬の阿寒	(2)
第2課	故郷へ三宅島	(8)
第3課	薩摩半島池田湖	(17)
第4課	新潟県中越地震	(24)
第5課	清流にきらめく水中花	(33)
第6課	街の死角に迫る	(40)
第7課	最果ての花園	(48)
第8課	三位一体改革	(55)
第9課	神秘的な水の造形	(64)
第10課	とり残された障害者たち	(71)
第11課	演歌流れる男たちの海	(80)
第12課	見直される女性の医療	(88)
第13課	博多湾に春がいつばい	(96)
第14課	派遣社員は製造業を変えるか	(104)
第15課	デジタルビデオを使いこなそう	(113)
第16課	アスベスト	(121)
第17課	雨降る島に神宿る	(130)
第18課	働くって何ですか	(138)
第19課	琉球遥か盆供養	(146)
第20課	厚生年金広がる空洞化	(154)
第21課	サバンナのオアシス	(162)



第22課	監視される社員たち	(171)
第23課	和傘に生きる	(179)
第24課	子供の睡眠が危ない	(187)
第25課	染色	(196)
第26課	希少野生動物を守れ	(204)
第27課	魚市場のうまかもん自慢	(214)
第28課	クレームで企業力アップ	(222)
第29課	老舗の技	(231)
第30課	痴呆症	(240)
第31課	ユニーク町おこし	(248)
第32課	VRE 感染拡大を防げ	(257)

第1課 冬の阿寒

背景紹介

特別天然記念物「マリモ」で有名な阿寒湖は、北緯43度、東経144度に位置し、火山の陥没によって出来た火口原湖であります。湖の周囲は26キロ、水面の海拔420メートル、水深44メートルの比較的浅い、北海道地図に似た淡水湖です。

湖上には、四つの島が配置良く点在し、休火山の雄阿寒岳、活火山の雌阿寒岳に挟まれるようにひっそりとたたずんでおります。



湖には、数多くの淡水魚が生息しており、代表的な物といたしまして、阿寒湖が原産地のヒメマス、他にワカサギ、コイ、フナ、ニジマスなどが有名です。

例年12月下旬頃から翌年の4月下旬まで、湖は結氷し、その凍った氷上に於いては、スノーモービルやバギー、又、氷に穴を開けてのワカサギ釣り、アイススケートなど各種のウィンタースポーツを体験出来る氷上遊園センターがオープンとなります。



重要単語

毬藻（まりも）：塩草目塩草科の糸状緑藻で球体を作るもの数種の総称。その一種の毬藻は淡水産の緑藻で、日本では阿寒湖、山中湖などに産。

マグマ【magma】：溶融した造岩物質を主体とする、地下に存在する流動物体。

裾野（すその）：山麓が遠く延びてゆるやかな斜面をなすところ。比喩にも使う。

ダイヤモンドダスト【diamond dust】：細氷。空気中の水蒸気が細かい氷の結晶となって大気中を落下、または浮遊する現象。寒冷地で気温がきわめて低い時に見られる。太陽に輝いてキラキラと見えるので、ダイヤモンドダストともいう。視程は1キロメートル以上ある。

ナトリウム【Natrium】：金属元素の一。元素記号 Na、原子番号 11。

湯壺（ゆづぼ）：温泉などの、湯をたたえる所。湯ふね。

煮え立つ（にえたつ）：煮えて湧き上がる。十分に煮える。にえあがる。

蝦夷鹿（えぞしか）：北海道産のニホンジカをいう。

練習問題

一、ビデオを見ながら、適当な言葉を選んで、次の短文の括弧の中に書き入れなさい。

今も活動が続く雌阿寒岳。標高（ ）の火山です。その北側に阿寒湖があります。阿寒湖が生まれたのはおおよそ（ ）。火山の噴火によって大きなくぼみができ、そこに水がたまりました。すぐそばに雄阿寒岳がせまります。1月、気温は（ ）近くまで冷え込んでいます。湖は前面が厚い氷に覆われています。周囲は（ ）。岸のすぐそばまで森が続いています。深い針葉樹の森です。これまでほとんど人の手が入ったことがありません。（ ）でも数少ない（ ）が残っています。

二、聞いた内容と合っているものに○、違っているものに×をつけなさい。

- (1) 今も活動が続く雌阿寒岳が標高 1299メートルの火山だ。()
- (2) 阿寒湖が生まれたのはおそよ10 万年前です。火山の噴火によって大きくぼみができ、そこに水がたまった。()
- (3) エゾシカの好物はやわらかい下草や固い木の皮だ。()
- (4) 森の中から蒸気が上がっています。ボッケと呼ばれる場所だ。()
- (5) 火山からの温かい水には、ナトリウムやカルシウムが含まれている。()

三、ビデオを見て、次の質問に答えてください。

- (1) ここは日本のどこですか。また季節はいつですか。
- (2) ボッケとはどんな意味ですか。
- (3) ボッケはどんな場所ですか。
- (4) マグマの熱を伝えるところはどこですか。二つ挙げてください。
- (5) 湯壺は水中の生物にとってどんな場所ですか。
- (6) マリモはどんな形をしていますか。また大きさはどのくらいですか。
- (7) マリモと火山はなぜ深い関係があるのですか。
- (8) 阿寒湖や河口湖など限られた湖でマリモの成長を促す条件は何ですか。
- (9) 阿寒湖では朝冷え込むとどのような現象が起きますか。





(10) エゾシカは雪の中、何を探していますか。

よく使う表現

温泉が沸く	自然の恵み	氷に覆われる
静まりかえった森	雪に埋もれた	冬を乗り切る
蒸気が上がる	ガスが噴出する	においが立ち込める
居心地がいい	岩が積み重なる	成長を促す
日が差し込む	冷え込んだ朝	水分が凍る
大雪に見舞われる	飢えをしのぐ	体力を回復する
命の輝きを守り続ける	北国に飛び立つ	

ポイント

●火山の活動は今も続き、独特の自然を作り出しています。冬、そのぬくもりが多く、命を支えます。

●今も活動が続く雌阿寒岳（めあかんだけ）。標高 1499メートルの火山です。その北側に阿寒湖があります。阿寒湖が生まれたのはおよそ10万年前。

●岸のすぐそばまで森が続いています。深い針葉樹の森です。これまでほとんど人の手が入ったことがありません。北海道でも数少ない原始の面影が残っています。

●静まりかえった森の中、生き物の姿が見えます。エゾシカの群れです。好物はやわらかい下草や木の芽。

●エゾリスが雪を掘っています。普段は木の上で暮らしています。しきりにあたりを警戒しながらどんどん深く掘っていきます。

●森の中から蒸気が上がっています。「ボッケ」と呼ばれる場所です。アイ

ヌ語で煮え立つという意味です。泥に混じってガスが噴出しています。温度は100度。辺りには硫黄のにおいが立ち込めています。

●阿寒にはこうしたマグマの熱を伝えるところが点在しています。マグマの熱は凍った湖の底からも出ています。

●氷の厚さは40センチにもなっています。穴が開いています。「湯壺」と呼ばれています。温かい水が湧き上がっています。

●湖の底にはいくつもの湧き出し口があります。この周りは真冬でも水温が20度近くあります。温かい水は魚にとっても居心地がいいようです。

●しかも岩が積み重なり、かっこうの隠れ家になっています。こちらはウチダザリガミ。ここには穂や水草が一年中生えています。

●氷の下で元気に魚が泳ぎまわっているのも「湯壺」があるからです。

●マリモは糸状の藻が無数に絡み合い、ボールのようになります。火山からの温かい水には、この成長に欠かせないナトリウムやカルシウムが含まれているのです。

●さらに、マリモの成長を促す条件があります。ほかの火山の湖には少ない浅瀬が広がります。日が差し込み、藻は十分に光合成ができるのです。

●朝、阿寒湖では氷点下20度近くまで冷え込むことがあります。空中のきらめき、ダイヤモンドダストです。

●あまりにも気温が低くなると空気中の水分が凍ります。その氷のつぶが朝日を受けて輝くのです。木の枝が白雲に染まるのもこうした冷え込んだ朝です。「樹霜」と呼ばれています。

●高い山の裾野に広がる阿寒の森はしばしば大雪に見舞われます。新雪の上に付いたばかりの足跡を見つけました。エゾシカの足跡です。向かった先にはボッケがあります。

●ここは、雪は少なく、冷えた体を温めることができます。エゾシカがボッケのまわりで食べ物を探しています。

●よく見ると、土の上に緑があります。コケが生えているのです。ガスのために背の高い植物は育ちませんが、一年中コケはあります。十分ではなくとも飢えをしのぐことはできるのです。



●毎年、湖には白鳥や鴨が渡ってきます。渡り鳥は湖畔の広いルッポに降り立ちました。春、シベリアなどの北国に飛び立つまでこの湖で過ごします。

●北海道阿寒の冬、火山のぬくもりが森と湖に命の輝きを守り続けています。

関連語句

温泉地（おんせんち）／温泉地

カルデラ／火山口

急峻（きゅうしゅん）／险峻

砂丘（さきゅう）／沙丘

人工林（じんこうりん）／人工林

ダム／水库

噴火（ふんか）／噴火

牧草地（ぼくそうち）／牧草地

観光産業（かんこうさんぎょう）／観光产业

起伏变化（きふくへんか）／起伏变化

休火山（きゅうかざん）／休眠火山

酸性土壤（さんせいどじょう）／酸性土壤

活火山（かっかざん）／活火山

新緑（しんりょく）／新绿

農家（のうか）／农家

砂州（さす）／沙洲

水田（すいでん）／水田

火口湖（ひぐちこ）／火山口湖

牧場（ぼくじょう）／牧场

若木（わかき）／小树

記事の書き方

ニュースを伝える日本語（1）

新聞やテレビでニュースを伝える日本語は、日常会話や普通の文章で使われる日本語とは少し違うところがあります。その主な違いを挙げてみましょう。

一、無理な省略

新聞では限られた紙面にニュースをできるだけ、たくさん詰め込もうとします

から、どうしても無理な省略が出てきます。例えば、

首相は、どの党にも平等にしたいという考えだ。

これが普通の文章ですが、この下線の部分を省略して次のようになります。

首相は、どの党にも平等にしたい考えだ。

普通の会話ではこういう言い方はしませんが、ラジオやテレビの放送ではときどき耳にすることがあります。また、新聞では、文末にくる動詞を省略することが非常に多い。

事件からもう30年。昔の美少年も今は老人。

こういう言い方は、普通の会話ではもちろん、ラジオやテレビでもしません。文の終わりを示す「。」の前に次の下線の部分のような動詞がくるのが普通の会話です。

事件からもう30年になります。昔の美少年も今は老人です。

こうした省略の結果、ひらがなの部分が減って漢字が多くなりますので、ますます読みにくくなります。これらは、新聞文章の癖ですから、読む人が慣れるほかはありません。

二、代名詞を使わない

英語のhe、sheに当たる日本語は「彼は」「彼女は」ですが、日本語のニュースを伝える文章では、こういう代名詞は、ほとんど出てきません。一つの文の中でも、誰かを指すとき、2度目でも3度目でもその人の姓または肩書きを繰り返します。「彼の」「彼女に」などとは書かないのです。テレビ・ラジオの放送でも同じです。小説など文学作品ではこういうことはなく堂々と代名詞を使っているのに、ニュースだけに見られる奇妙な習慣です。

これは事件が進行しているとき、記者が前に書いた記事を削ったり、ニュースを付け加えたり、挿入したりするとき、間違いを防ぐためです。「彼」「彼女」はそのすぐ前にある人物を指すのが普通なので、挿入、削除の度に、その前後の代名詞に注意する、という煩わしい作業をなくすのが目的です。

第2課 故郷へ三宅島

背景紹介

三宅島は、直径8キロほぼ円形の、主に玄武岩からなる成層火山です。頂上部に直径約3.5キロの外側カルデラがあり、その内側には2000年噴火により生じた直径1.6キロのカルデラがあります。山頂部の火口のほか、山腹に割れ目噴火による側火口が多く、海岸近くにはマグマ水蒸気爆発による爆裂火口が多数あります。



2002年4月18日のカルデラ内の状況

最近500年間には17～69年、平均50年の間隔で13回の噴火が起き、1回の噴出量は2000万～3000万トン程度でした。有史以後の活動は、山頂から北・東南東、西・南南西の方向の山腹の割れ目火口からの短期間の噴火であり、時に山頂噴火を伴います。スコリアの放出・溶岩流出のほか、割れ目火口が海岸近くに達したときは海岸付近では激しいマグマ水蒸気爆発が起こりやすいです（1983年噴火など）。直径1400メートルの山頂火口（八丁平）をつかった最後の噴火は1469年のものらしいです。この噴火では、東方に火山砂を降らせつつ直径1000メートルの雄山スコリア丘を八丁平火口底に築きました。スコリア丘の火口内は溶岩湖で一時満たされたが、その灼熱溶岩はまもなく西側へ排出され、溶岩流として山腹を下りました。最近の噴火は山腹に割れ目が開く様式をとることが多いです。1983年噴火は南西に、1962年噴火と1940年噴火は北東に、1874年噴火は北に割れ目が開いて玄武岩マグマが噴出しました。三宅島では山腹割れ目噴火が

生じやすく噴火の展開が急であるから、防災の努力がこの島では特に必要です。

噴火前後に地震活動を伴いますが、地震活動域と噴火地点とは一致しないことがあります。2000年噴火では島内で始まった地震活動が徐々に西方沖に移動して海底噴火に至り、その後山頂直下の地震活動が始まり山頂噴火・カルデラ形成へと推移しました。1983年噴火では前年から南方海域での群発地震活動などがあり、噴火直前の地震活動は噴火開始の1時間半前からでした。1962年をはじめ、過去のいくつかの噴火では噴火後に有感地震が頻発しました。1940年、1962年の噴火に際して起こった地震の震源は噴火場所が北東山腹であったにもかかわらず島の北西部でした。

2000年6月に始まった噴火活動では、山頂噴火が発生するとともにカルデラを形成しました。さらに火山ガス（二酸化硫黄）の大量放出が続き、2005年2月までの4年半にわたって全島民が島外での避難生活を余儀なくされました。火山ガスの放出は長期的には減少しているものの、避難が解除された現在も多量の放出が継続中です。

重要単語

打ち切る（うちきる）：物事を途中で終わりにする。中止する。

崩しがち（くずしがち）：体調が悪くなって、病気がちになる。

リハビリ【rehabilitation】：リハビリテーションの略。障害者や事故・疾病で後遺症が残った者などを対象とし、身体的・心理的・職業的・社会的に最大限にその能力を回復させるために行う訓練・療法や援助。社会復帰。

ダイバー【diver】：レジャーとして潜水をする人。

借り入れ（かりいれ）：借金すること。

義援金（ぎえんきん）：義援のために出す金銭。

クラフト【craft】：手づくりの工芸品。手工業。

取り返し（とりかえし）：元のとおりにすること。

ぐるぐる：物が連続的に回転する様子。